



通信

HP 学校だより
R6. 7. 10
NO. 16
文責 伊藤美佳



ラーケーションでの学び

「ラーケーション」という制度がスタートして、1年になろうとしています。

先日、1年生の子がラーケーションでお母さんの母校である小学校を見学に行くと教えてくれました。こう聞くと、「その地に行って外から母校を見る」と思いがちですが、その子のラーケーションは一味違いました。まず、母校に連絡をとり、学校の中を見学させてもらえるか確認と依頼をしたそうです。本人がクラスの前でお母さんの母校の校歌を歌っているところにちょうど出くわしたので、母校訪問した内容を聞くことができました。撮ってきた写真や地図、絵などを見せながら、丁寧に説明していました。説明を聞いている子どもたちも、自分たちのいる豊坂小学校と比較して、その違いや感想が自然と口からこぼれていました。中でも、1年生の算数の授業に参加させてもらったことにはびっくりしました。「お母さんの母校を知ること」が目的のラーケーションでしたが、多くの人とかかわり、違いを知り、自分の今を見直すこともできたのではないかと感じました。

「ラーケーション」で、子どもたちに学校では体験、経験できない学びをさせていただけていること、本当にすてきだと思います。学校内での学びが、生活の中で生かされていることを実感したり、自分の得意なことや好きなことを極めたりできたとしたら、きっと子どもたちの学ぶ意欲が非常に高まると信じています。これから、長い夏休みを迎えますが、そこでも子どもたちが人とかかわりながら多くの体験や経験をでき、成長することを期待したいです。

改めて感じる地域のありがたみ

先週は、一斉下校が多かったです。酷暑の中、下校する子どもたちのことを考えると、とても心配でなりません。途中で体調が悪くならないか見守ってくださった地域の方々や保護者の皆さん 本当にありがとうございました。

ニュースでも連日「猛暑」「酷暑」のニュースが流れています。昨年もありましたが、そういう時に、新聞やテレビの取材が入るのが鈴木化学工業所のウォータークーラーです。バスをお願いしても上六栗の高学年だけは乗れない現実があり、ウォータークーラーを設置していただき、冷たいお水を飲ませていただけることは、子どもたちにとってとてもありがたいことです。きっと、「地域の子どもたちのために」と考えて実施して下さっているからこそ、多くの取材が来るのでしょう。昨年度はニュースステーション、今年度は、先週が中日新聞社とNHK、今週はCBCの取材を受けてみえました。

子どもたちの様子を見に行くと、大きな声であいさつしたり、「ありがとうございました」のお礼を言えたりする子が増えたことに喜びを感じます。自分たちのために活動して下さっている地域の方々へ、何が返せるかと言ったら気持ちのよい「あいさつ」と心を込めた「ありがとう」というお礼の言葉ではないでしょうか。豊坂っ子がこういう大切なことを学ぶのも、地域の皆さんが子どもたちのためにご尽力いただいているからです。感謝の言葉しかありません。